

運 營 計 画

(令和4年度)

令和4年5月1日

中央動物専門学校

目 次

1. 建学の目的	1
2. 教育方針	1
3. 基本的運営方針	1
4. 令和4年度 運営重点項目	1
5. 運営指針	2
6. 学生在籍推定数	2
7. 教育指導内容及び教育運営の充実	3
8. 教育設備機器等の整備	5
9. 就職（進路）指導体制	5
10. 広報計画	6
11. 附帯教育事業	6
12. 同窓会との連携	7
13. 主な学校行事予定	8

1. 建学の目的

学校教育法に基づき、文化・教養系の中で動物に関わる分野に従事しようとする者に専門的知識及び特定技術・技能を習得させるとともに品性の陶冶に重きを置き、視野の広い良識のある動物管理技能者の育成を目的とする。

中央動物専門学校は、創立110年を超える母体校の専門学校中央工学校(開学1909年)の姉妹校として、2002年に開校した。法人名である「中央工学校」の“工”において、上の棒は「天」、下の棒は「地」、間の棒は「人を結ぶ」という壮大な概念を表し、校是は「堅実」である。

このことを改めてかみしめ、専門学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方を基軸に、動物の基礎知識を学び「人」と「動物」がより良く共生できるための確かな技術力を持った人材を育成するために設立された。

2. 教育方針

次の3つを教育方針とし、動物に携わるために必要な専門知識と、種々の管理技能をもったスペシャリストの育成を目指す。

- (ア) 優しい心
- (イ) 倫理観
- (ウ) 自己責任

3. 基本的運営方針

「建学の目的」と「教育方針」による【動物を優しく見守る心】【命の尊さと善悪の判断ができる心】【最後までやり遂げる意識・責任感の心】の3つの心を持つ学生を、本校の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)とし、その基本的運営方針を次のように定め、全学的に推進する。

- (ア) 実技・実習による「厳しい実務教育」を教育の中核とする。
- (イ) 「人間涵養教育」により、豊かな社会性を有する技能者を育成する。
- (ウ) 学生生活の充実のため学習環境の整備を図り、学生と共に「楽しい学校」を作る。

4. 令和4年度運営重点項目

10月1日に創立20周年を迎える4年度の運営重点項目は、次のとおりとする。

ア 新しい教育手法と教育の質の確保

新型コロナウイルス感染症との共存とも言うべき学校運営は3年目を迎える。次々と出現する変異株に対しても、感染防止策を講じながら授業実施等を行ってきたが、今後も継続して学びを止めることなく、一層の創意工夫をもって、更なる教育の質の確保を図りつつ、新しい教育手法の取り組みを行う。

また、「愛玩動物看護師法」が5月1日施行となることを踏まえ、養成校指定の申請内容に適合するよう教育内容の再編成を行い、更には文部科学大臣による全学科認定の職業実践専門課程の充実のため、継続して教育の質の向上を図る。

イ 学校運営計画の再構築

学生数の増加と前項アの教育体制の確立に対応すべく、自己点検・評価及び学校関係者評価制度の結果に基づき、継続して学校運営計画の再構築を推進する。

ウ 学生募集の強化と入学選考（選抜）試験の改編実施

令和元年に制定された愛玩動物看護師法の受験要件への適合を目的として、2年度の学生募集から募集学科再編（変更）の周知強化を図り活動を行ってきた結果、募集状況は3年度、2年度と入学定員を充足した。継続して広報手法の適正分析を行い、学校運営の安定化に向けて学生募集の強化を図る。

なお、募集定員を大幅に上回る出願があった学科もあり、募集区分と入学選考（選抜）試験の実施方法の改編などを行い、更に厳正な入学者選抜の実施を推進する。

5. 運営指針

ア 学校運営組織

令和4年度の学校運営組織は、次のとおりとする。

（単位：名）

区 分	人 数
本務教員	29
兼務教員	19
本務事務職員	9
兼務事務職員	1
計	58

イ 各種委員会体制

学校運営を円滑に行うために次のとおり委員会を設置する。

- | | | |
|---------------|-----------|-----------|
| ①学友会学生委員会 | ②海外研修委員会 | ③国内研修委員会 |
| ④図書委員会 | ⑤美化・緑化委員会 | ⑥情報発信委員会 |
| ⑦永久パートナー制度委員会 | ⑧同窓会運営委員会 | ⑨大動物実習委員会 |
| ⑩自己評価委員会 | ⑪教育評価委員会 | ⑫動物倫理委員会 |
| ⑬創立20周年記念委員会 | | |

6. 学生在籍推定数

令和4年4月当初の学生在籍推定数は次のとおりとする。

項 目	3年度	4年度	増減	前年度比	摘 要
学 生 数	430	446	+16	103.7%	新入生、進級生とも増加
ク ラ ス 数	21	21	—	100.0%	

7. 教育指導内容及び教育運営の充実

ア 愛犬美容関連科

(ア) 教育の高度化に向けた取組み

- ①愛犬美容科（2年制）と愛犬美容研究科（3年制）の学習内容の差別化
- ②研究科の授業内容の充実及び転科希望学生の増加策の検討
- ③プードル以外のショーグルーミング授業の実現を検討

(イ) 教育内容の充実を目的とした取組み

- ①動物美容実習における学生数に見合った実習頭数の確保と実習教室の整備
- ②学生の技術力に合わせた指導の徹底
- ③少人数でのグループ実習の拡充による細やかな指導
- ④猫美容実習の充実化
- ⑤校外研修・校外実習の積極的な実施
- ⑥外部講師を招いての実技講習及びトリミング業界のニーズに即した動物美容実習の実施
- ⑦即戦力となる人材育成のための、一般教養とビジネスマナーの習得
- ⑧学生数に見合った動物美容実習指導体制の充実

イ 動物看護研究科

(ア) 教育の高度化に向けた取組み

- ①即戦力となる人材育成のための、一般教養とビジネスマナーの習得
- ②愛玩動物看護師養成カリキュラムに準拠した教科構成に加え、本校独自のカリキュラムの実施
- ③高度医療機関、専門性の高い動物病院、その他臨床検査機関等での校外研修の実施

(イ) 教育内容の充実を目的とした取組み

- ①犬用トレーニングプールを活用した運動療法やマッサージ等、リハビリテーションの基礎を習得
- ②獣医療業界のニーズに即した実習授業の展開
- ③能動的学習の強化
- ④非常勤講師、特別講師、動物関連企業・施設との連携強化
- ⑤動物関連業界への理解を深めるため校外研修の実施と参加奨励
- ⑥愛玩動物看護師制度への対応

ウ 動物共生関連科

(ア) 教育の高度化に向けた取組み

- ①履修年限の長さ（3年制及び4年制）を活かした多様な授業展開で、学生の希望や能力に合わせた有意義な学習環境の整備
- ②創造性と思考能力の向上
- ③即戦力となる人材育成のため、豊富な校外研修や実習先の確保

(イ) 教育内容の充実を目的とした取組み

- ①コミュニケーション能力及び社会人力の向上
- ②動物業界の動向を反映した教育の実施
- ③授業形態の改善による学生理解度の向上
- ④飼養動物との交流を通じた、共生社会の実現
- ⑤動物の福祉の理念に基づいた飼養動物の飼育環境整備
- ⑥就職先開拓のための積極的な校外研修及び実習の実施

エ 校有動物飼育管理

動物美容実習及び美容実技試験並びに看護検査実習における、学生数に応じた校有犬の頭数管理及び必要種類の維持のため、次の項目に重点を置く。

- ①校有動物の各種実習に対応した必要頭数の確保と健康管理及び繁殖計画
- ②ショークリップ用トイプードルの安定的供給
- ③認定トリマー実技試験用の校有犬のコート管理
- ④校内繁殖の実践と保健所等行政機関との連携強化
- ⑤永久パートナー制度を利用した計画的な校有動物の入替え
- ⑥観賞魚等の校有動物の飼育管理
- ⑦企業との連携による動物飼育の検討
- ⑧改正動物愛護法に対応する、各種法令遵守の取り組み

オ 動物美容実習用モデル犬・猫

実践的な動物美容実習を継続して実現させるために、愛犬美容科教員との連携を図りながら、次の項目に重点を置き、モデル犬・猫の安定供給を図る。

- ①モデル犬・猫の登録数及び犬種・猫種の調整
- ②送迎業務及び美容実習における安全対策
- ③モデル犬の老齢化（小型・中型 11 歳、大型 10 歳）による引退及び若年（1 歳以上 8 歳未満）の新規モデル犬確保
- ④モデル犬オーナーへの混合ワクチン・狂犬病接種（毎年）依頼
- ⑤モデル猫オーナーへの混合ワクチン接種依頼
- ⑥動物美容実習における事故発生時の対処と学生指導への反映
- ⑦動物愛護法法令遵守（動物取扱業「保管」の徹底）
- ⑧猫ブリーダーの開拓拡充及び連携強化による猫美容実習の充実化
- ⑨モデル犬送迎車両の適正な運用管理

カ 教員の資格取得の奨励と積極的な研修参加

授業内容の充実と学生への信頼感確保の観点から、次の資格取得推奨と実務研修等への参加を積極的に行う。

- ①愛玩動物看護師（国家資格）
- ②全日本動物専門教育協会認定資格（トリマー、動物看護師、家庭犬訓練士、ハンドラー、キャットグルーマー、動物介在福祉士、動物共生環境コーディネーター）
- ③愛玩動物飼養管理士

- ④動物取扱主任者
- ⑤東京都専修学校各種学校協会の教員教職課程研修会
- ⑥専修学校コンソーシアム Tokyo 教育の会の各種研修会
- ⑦ドッグショー及び各関連協会の講演会・講習会
- ⑧ペットショップ・動物病院・飼育施設等での実務研修

8. 教育設備機器等の整備

ア 教育環境の充実を目的とした施設・機器類の整備

- ①教育用コピー機の入替え
- ②医療用照明（無影灯）の入替え（401R）
- ③生物顕微鏡の入替え（402R）
- ④しつけ訓練実習教室の整備（1913R）
- ⑤教室AV機器（プロジェクター他）の整備
- ⑥教室拡張及び整備（1934R・1935R）
- ⑦ドッグランのフェンス設置
- ⑧教員用PCの入替え

イ 業務運営の効率化を目的とした機器類の整備

- ①広報室PCの入替え
- ②広報室ミラーレスカメラの入替え

9. 就職指導体制

動物業界の動向と実態を調査し、就職先確保に努め、学生と就職先のミスマッチ防止のため次の項目に重点を置いた指導を実施する。

ア 就職指導

- ①クラス担任との連携による学生の進路希望の把握と、適正な指導の実施
- ②模擬面接等の積極的指導
- ③就職意識向上を目指す授業や卒業生講演の積極的実施による学生の職業観や労働観の醸成
- ④学生の就職選択及び就職意識の向上を目的とした就職ガイダンスの実施
- ⑤定期的（年2回）な合同企業説明会の開催及び通年の企業説明会の実施
- ⑥インターンシップ等の推進による就職におけるミスマッチの防止
- ⑦社会人として必要なビジネスマナーの体得及びコミュニケーション能力の向上を図る指導の実施

イ 求人先・研修先の確保

- ①首都圏400社以上の校外研修先への訪問
- ②関東圏を中心に約5,000社に年2回、求人依頼及び本校の学校案内書の送付
- ③動物系雑誌への出広による校名告知
- ④研修先に関する情報収集及び学内での公開

⑤卒業生との連携による就職先企業の調査

10. 広報計画

ア 基本方針

令和4年度は、次の6項目を軸に広報計画を立案する。

- ①東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県を中心とした校内ガイダンス参加と、高校との連携強化に重点を置いた募集活動
- ②学内イベント参加者からの出願率アップを目指す取り組み
- ③オンラインによる学内イベント・校内ガイダンスの強化
- ④インターネット広告・WEB媒体の活用(本校WEBサイト・進学情報サイト他)
- ⑤高校1・2年生に対する早期告知の強化
- ⑥広報職員・学生サポーターのスキル向上

イ 普及活動における広報計画

(ア) 進学説明会への参加

- ①高等学校内開催形式：主に首都圏(1都3県)を中心に年間約350校へ参加
- ②主要都市で開催される会場形式：年間約10会場へ参加(中央工学校と連携)

(イ) 高等学校訪問

- ①学生募集重点地域を中心に、年間4回以上を目標に約300校を訪問
- ②首都圏(1都3県)の高校との連携強化

(ウ) 日本語学校訪問

- ①高校生の募集状況と、過去の入学実績等を考慮し訪問を検討
- ②留学生会議での情報共有による留学生募集の展開

(エ) (一社) コンソーシアム Tokyo 関連

- ①しごと倶楽部2022他、加盟校との連携による専門学校の魅力訴求強化

ウ 体験入学、学校説明会等の学内イベント

- ①来校型イベントの動員目標 500名(出願対象者)
体験入学7回、学校説明会8回、学科別体験入学9回
保護者対象学校説明会1回、入試説明会1回、オープンカレッジ3回
- ②オンラインによる各種説明会の企画・実施
- ③個別相談会等(来校型イベントの開催状況に応じた個別相談会の企画・実施)

11. 附帯教育事業

近隣住民・モデル犬オーナー等を対象とし、動物共生総合科4年生の授業の一環として「犬のしつけ方教室」を開催している。令和4年度も継続して、動物共生系学科全体の授業と連動させ実施する。

12. 同窓会との連携

中央動物専門学校同窓会は発足後 17 年を経過した。同時に発足した学内の「同窓会運営委員会」では、同窓会の定例総会や研修会、会報誌発行、永久パートナー制度の紹介等を通じ、卒業生との連携を深め、在校生の研修先・就職先の開拓へと有意義な活動を展開している。

また、出願者数の増加につなげられるよう、総会や会報誌、ホームページ等での卒業生紹介や入学優遇制度の告知を令和 4 年度も継続して推進する。

卒業生数は令和 3 年度末で 2,300 名を超える。令和 4 年度も継続して卒業生の現住所等の確認調査を重点的に実施し、精度の高い卒業生データ管理を行う。併せて、卒業生調査を実施し、卒業後のキャリア形成への効果の把握に努める。

同窓会の主な活動予定は、次のとおりである。

ア 同窓会総会等の開催

総会の開催（令和 4 年 5 月）

イ 会報誌の発行

（ア）第 43 号発行（令和 4 年 6 月）

（イ）第 44 号発行（令和 4 年 10 月）

（ウ）第 45 号発行（令和 5 年 3 月）

ウ 研修会等の開催

随時会員より企画を募り親睦を深める。

13. 主な学校行事予定

月	日	行事	月	日	行事
4	6	教職員会議	8	31	教員研修報告会
	8	入学式	9	1	授業開始
	9	学校説明会		8	前期定期試験・学校関係者評価委員会
	11	オリエンテーション		10	入試説明会・学科別体験入学
	11・12	健康診断		23	体験入学
	13	前期授業開始	30	前期授業終了	
	23	学科別体験入学	10	3	後期授業開始
28	合同企業説明会①	8・9		学園祭	
5	14	学校説明会	11	26	学科別体験入学
	22	体験入学		12	10
	31	授業参観日	23		冬期休暇前授業終了
6	11	学校説明会	1	10	授業開始
	14	教育課程編成委員会①		14	学科別体験入学
	26	体験入学		17	教育課程編成委員会②
7	9	保護者対象学校説明会・学校説明会	18~20	30	協会一斉学科試験
	15	体育祭			卒業学年定期試験
	22	夏期休暇前授業終了日			2
	23	体験入学	13	進級学年定期試験	
	26	オープンカレッジ	18	学校説明会	
	28	しごと倶楽部 2022	28	卒業研究・成果発表・後期授業終了	
8	2	学科別体験入学	3	6	合同企業説明会②
	4	学校説明会		7	卒業成績審議会
	6	体験入学		10	卒業決定発表
	9	学科別体験入学		11	学科別体験入学
	19	オープンカレッジ		22	卒業証書授与式
	20	体験入学		23	進級成績審議会
	23	学校説明会		29	新3年生対象体験入学
	26	オープンカレッジ		30	進級発表
	30	学科別体験入学			